

社会的責任と地域貢献活動

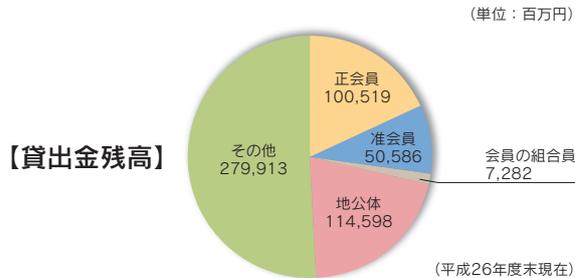
地域経済活性化への貢献

当会は、地元のJA等が会員となって、お互い助け合い発展していくことを共通の理念として運営されている相互扶助型の農業専門金融機関であるとともに、地域経済の活性化に資する地域金融機関です。

地域からの資金調達状況



地域への資金供給状況



【地方債引受】

平成26年度の北海道債の引受（銀行等引受債）は130億円でした。

これは当年度内総発行額1,650億円に対し7.87%のシェアを占めており、引受全金融機関別のシェアでは上位第4位という重要な位置付けにあります。

道内農畜産物の販売代金等の資金を会員JAから貯金として吸収し、北海道債の引受をはじめ道内地方公共団体への融資として還元することにより、北海道経済の持続的発展に寄与し、地域社会の活性化に貢献するよう取り組んでおります。

北海道農業への貢献

JAバンク北海道の多様な農業資金

対象者や資金用途に応じ、さまざまな資金を設けています。道内JA統一資金のほか、北海道信連独自資金も設けており、JAバンク北海道が一体となった農業担い手等への金融対策強化に取り組んでおります。

【道内JA統一資金】

資金名	資金の使いみちなど	残高
JA フルスベックローン	農機具や格納庫など、比較的小口の設備資金	61,222
JA 農業経営緊急支援資金	飼料費などの生産資材の高騰あるいは災害などにより緊急に必要となる中・長期運転資金	8,694
JA 農業経営サポートローン	「経営所得安定対策」に係る交付金等入金までの間に必要となる運転資金	698
JA 農業経営ステップアップローン	農業経営に必要な設備資金や中・長期運転資金	4,499
JA 営農応援ローン	農業経営に必要な短期運転資金	892
JA 新規就農応援資金	新規就農者の農業経営にかかる設備・運転資金	87
JA 再生可能エネルギー施設等資金	再生可能エネルギー利用の取り組みを支援するための発電・蓄電設備取得資金	196

(単位:百万円)

【北海道信連独自資金（農家組合員向け）】

(単位:百万円)

資金名	資金の使いみちなど	残高
農業経営ステップアップ資金	農地・施設・機械の取得等、農業経営改善に要する資金	4,719
信連 新規就農者資金	新規就農者が、農業経営を行っていく際に必要となる資金（営農資金・住宅資金）	260
信連 農業後継者応援資金 信連 中核農業者応援資金	農業経営の安定化・高度化に資するための既往農業負債の借換並びに借換に必要な費用	572
信連 農業法人経営応援資金	農業法人が、農業経営を行っていく際に必要となる資金（運転資金・機械・設備資金）	314

【北海道信連独自資金（総合JA向け）】

(単位:百万円)

資金名	資金の使いみちなど	残高
農業経営緊急支援資金	飼料費などの生産資材の高騰あるいは災害などにより、緊急に必要となる運転資金について、JAが農業者の皆さまにご融資しようとする場合に、その原資をJAに融通する資金	3,485
共同利用施設等設備資金	組合員が利用する共同利用施設等をJAが建設するための設備資金	16,757

当会では独自資金の他に、制度資金、受託資金も取り扱っております。

【制度資金取り扱い状況】

(単位:百万円)

資金名	残高
農業近代化資金	6,043

【受託資金取り扱い状況】

(単位:百万円)

資金名	資金の使いみちなど	残高
日本政策金融公庫 (農林水産事業)	生産力の維持増進・食料の安定供給の確保に必要な資金をお取り扱いしております。	212,271
日本政策金融公庫 (国民生活事業)	教育を受けるために必要な資金をお取り扱いしております。	794
住宅金融支援機構	災害関連融資等政策的に重要なものを除いて、原則として新規のお取り扱いはしていません。	30,349



社会的責任と地域貢献活動

◆「経営者保証に関するガイドライン」への対応方針について

経営者保証に関するガイドライン研究会（全国銀行協会および日本商工会議所が事務局）が公表した「経営者保証に関するガイドライン」を踏まえ、当会は、本ガイドラインを尊重し、遵守するための態勢整備を実施致しております。

当会は、お客さまと保証契約を締結する場合、また、保証人のお客さまが本ガイドラインに則した保証債務の整理を申し立てられた場合は、本ガイドラインに基づき、誠実に対応するよう努めてまいります。

◆金融円滑化の取り組みについて

金融円滑化にかかる基本方針

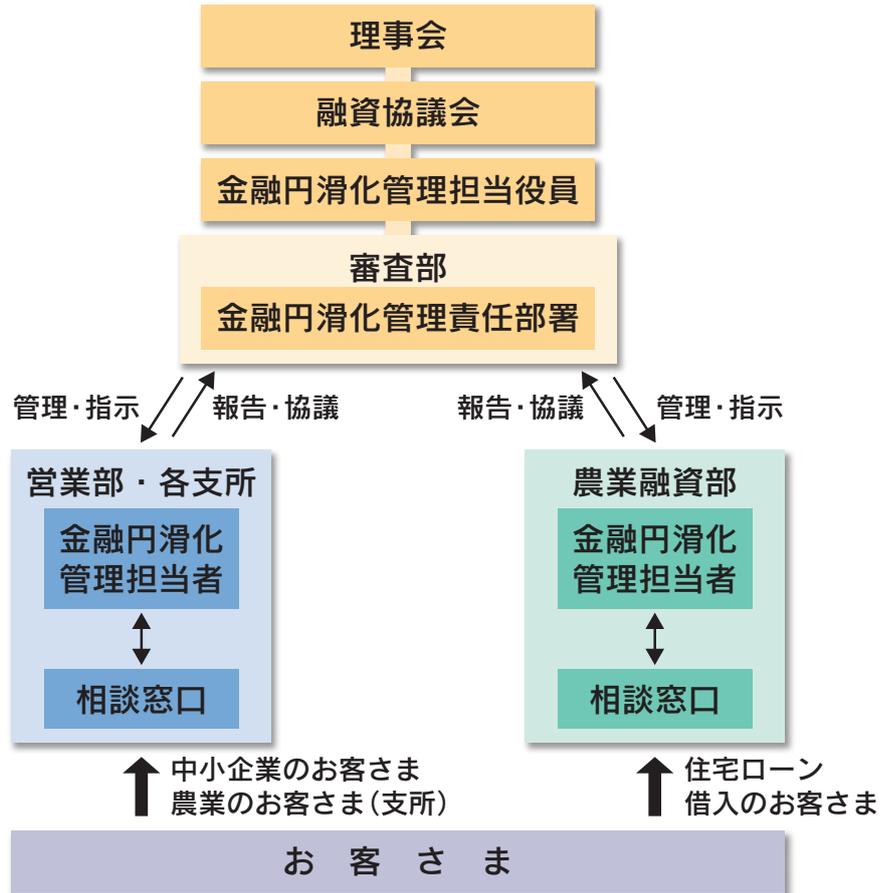
当会は、「健全な事業を営む農業者をはじめとする地域のお客さまに対して必要な資金を円滑に供給していくこと」を、「最も重要な役割のひとつ」として位置付け、公共性と社会的責任を強く認識し、その適切な業務の遂行に向け、以下の方針を定め、取り組んでいます。

1. 当会は、お客さまからの新規融資や貸付条件の変更等の申込みがあった場合には、お客さまの特性および事業の状況を勘案しつつ、できる限り、柔軟に対応するよう努めます。
2. 当会は、事業を営むお客さまからの経営相談に積極的かつきめ細かく取り組み、お客さまの経営改善に向けた取り組みをご支援できるよう努めてまいります。
また、役職員に対する研修等により、上記取り組みの対応能力の向上に努めてまいります。
3. 当会は、お客さまから新規融資や貸付条件の変更等の相談・申込みがあった場合には、お客さまの経験等に応じて、説明および情報提供を適切かつ十分に行うように努めてまいります。
また、お断りさせていただく場合には、その理由を可能な限り具体的かつ丁寧に説明するよう努めます。
4. 当会は、お客さまからの、新規融資や貸付条件の変更等の相談・申込みに対する問い合わせ、相談および苦情については、公正・迅速・誠実に対応し、お客さまの理解と信頼が得られるよう努めてまいります。
5. 当会は、お客さまからの新規融資や貸付条件の変更等の申込み、事業再生ADR手続の実施依頼の確認または地域経済活性化支援機構もしくは東日本大震災事業者再生支援機構からの債権買取申込み等の求めについて、関係する他の金融機関等（政府系金融機関等、信用保証協会等および中小企業再生支援協議会を含む。）と緊密な連携を図るよう努めてまいります。
また、これらの関係機関等から照会を受けた場合は、守秘義務に留意しつつ、お客さまの同意を前提に情報交換しつつ連携に努めます。
6. 当会は、お客さまからの上述のような申込みに対し、円滑に措置をとることが出来るよう、必要な体制を整備いたしております。
具体的には、
 - (1) 代表理事理事長以下、役員並びに関係部長を構成員とする「融資協議会」にて、金融円滑化にかかる対応を一元的に管理し、組織横断的に協議します。
 - (2) 理事資金運用本部長を「金融円滑化管理責任者」として、当会全体における金融円滑化の方針や施策の徹底に努めます。
 - (3) 営業部、農業融資部、各支所に「金融円滑化管理担当者」を設置し、各部署における金融円滑化の方針や施策の徹底に努めます。
7. 当会は、本方針に基づく金融円滑化管理態勢について、その適切性および有効性を定期的に検証し、必要に応じて見直しを行います。

◆ 金融円滑化にかかる体制整備について

当会では、金融円滑化にかかる対応措置を適切に把握し対応するため、以下の体制を整備しております。

【お借入条件の変更等に関する申込みに対する対応体制】



社会的責任と地域貢献活動

◆ 金融円滑化にかかる実施状況について

【債務者が中小企業者である場合】

(単位：件)

対象期間：平成21年12月～27年3月末	平成25年 6月末	平成25年 9月末	平成25年 12月末	平成26年 3月末	平成26年 6月末	平成26年 9月末	平成26年 12月末	平成27年 3月末
貸付の条件の変更等の申込みを受けた貸付債権の数	38	40	41	42	43	44	45	47
うち、実行に係る貸付債権の数	36	38	39	40	41	42	43	45
うち、謝絶に係る貸付債権の数	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、審査中の貸付債権の数	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、取下げに係る貸付債権の数	2	2	2	2	2	2	2	2

*件数は平成21年12月からの累計

【債務者が住宅資金借入者である場合】

(単位：件)

対象期間：平成21年12月～27年3月末	平成25年 6月末	平成25年 9月末	平成25年 12月末	平成26年 3月末	平成26年 6月末	平成26年 9月末	平成26年 12月末	平成27年 3月末
貸付の条件の変更等の申込みを受けた貸付債権の数	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、実行に係る貸付債権の数	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、謝絶に係る貸付債権の数	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、審査中の貸付債権の数	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、取下げに係る貸付債権の数	0	0	0	0	0	0	0	0

*件数は平成21年12月からの累計

社会的責任と地域貢献活動

JAの融資体制強化への取り組み

JAバンク北海道では、農業者の経営状況に応じた融資体制強化のため、融資対応の一層の迅速化と高度化に取り組んでおります。

JAバンク北海道農業融資専門委員会・地区戦略会議の取り組み

JAバンク北海道では平成23年に創設した「JAバンク北海道農業融資専門委員会」にて、農業金融商品の企画や戦略的課題への取り組みを協議しています。

専門委員は地域事情に精通し専門的知識を有するJA実務者等により構成され、アドバイザーとして農林中金、オブザーバーとしてJAバンク北海道サポート基金、北海道農業信用基金協会が参加し、施策検討等が行われております。

また、各地区に設置された戦略会議（全体会議・農業融資部会）では、JAバンク担い手金融リーダーを中心に地区の実情にあわせた協議を行っています。

なお、JAバンク北海道では職員の実務処理能力・融資渉外能力の向上および農業融資に関する知識の習得を図るため、「JAバンク農業金融プランナー」資格制度の取得に取り組んでおり、現在、538名が資格を取得しています。

協議事項

- 農業者の信用力に応じた貸付手法の導入について
- 農業法人支援への取り組みについて
- 負債対策者の経営改善に向けた検討について
- 農業融資に係る人材育成について

など

※JAバンク担い手金融リーダー

農業金融実務の専門家として設置を進めてきたもので、現在全国で2,094名を数え、道内においても277名が各JAで活躍しております。



農業法人・農業者向けフォーラムの開催

本フォーラムは、農業法人・農業者への支援に向けた取り組みの一環として、JAバンク北海道が主催し、JAグループ北海道が一体となって開催しているものです。

農業法人経営者や個人農業者を対象に、農業経営を考える上で一助となるようなソフト面での機能還元を目的に、11月に札幌で、2月に中標津でフォーラムを開催いたしました。

今後も、定期開催や他の地域での開催を含め、農業法人・農業者の方々とJAグループとのより一層の関係強化を目指してまいります。

平成26年度フォーラム開催内容

〈札幌地区〉

平成26年11月13日（木） 於：札幌パークホテル

「JAグループ北海道 農業経営フォーラム」

フォーラム内容

①演 題：「ディズニー流 モチベーション向上施策のツボ」

講 師：オフィスリコグニッション

代表 徳 源秀 氏

②演 題：「食糧、農業、流通の現状と農業経営について」

講 師：経営コンサルタント(株)都築経営研究所

代表 都築 富士夫 氏

③パネルディスカッション：「時代の変化を捉えた農業経営と人材育成について」

コーディネーター：フリーアナウンサー 野宮 範子 氏

パネ リ ス ト：オフィスリコグニッション 代表 徳 源秀 氏

経営コンサルタント(株)都築経営研究所 代表 都築 富士夫 氏

(有)大塚ファーム 代表取締役 大塚 裕樹 氏



〈中標津地区〉

平成27年2月5日（木） 於：トーヨーグランドホテル

「JAグループ北海道 農業経営フォーラムin中標津」

フォーラム内容

①演 題：「逆境を切り拓く経営～壁を破る発想法」

講 師：(株)佐藤満 国際経営農業研究所 代表取締役社長

佐藤 満 氏

②演 題：「労務制度の有効活用および就業規則にかかる留意点について」

講 師：社会保険労務士法人オホーツク労働事務所 代表

特定社会保険労務士 多田 学 氏



※両地区とも、フォーラム終了後には情報交換を目的とした交流会を開催いたしました。

社会的責任と地域貢献活動

地域社会とのふれあい

各JAの窓口で年金を受け取られている皆さまが中心となって、年金友の会をつくり活動を行っておりますが、当会は、各JAを通じてこれらの活動を支援し、健康で楽しく暮らせる明るい地域社会づくりに協力しております。



高齢化社会と年金相談

高齢化社会を迎え年金受給者は大幅な増加傾向にあります。JAバンクは、新規に年金を受け取られる方への受給手続相談、既受給者に対する「貰い忘れ年金」相談など、年金に関する幅広い相談に対応できる相談窓口の充実に取り組んでおります。年金に関するご質問等は、最寄りのJA窓口へお尋ねください。

社会福祉充実への貢献

JAバンク北海道（JA／当会）は、地域貢献活動として、平成21年度から平成25年度にかけてJR北海道および道内の社会福祉協議会に対し、AED（自動体外式除細動器）を寄贈して参りましたが、平成26年度からは、新たに設立した「一般社団法人JAバンク北海道サポート基金」におけるサポート事業の一環として地域貢献活動に係る支援を目的にAEDの寄贈を継続して行っております。



寄贈先としては、昨年同様JR北海道の各主要駅としており、同社のAED配置計画と連携し、新規配置予定分および従前より配置している機器の更新分も含め対応しております。

また、道内の社会福祉協議会に対しても引き続きAEDの寄贈を行っております。

平成26年度は、JR北海道へ6台（札幌駅、大麻駅、八軒駅）、道内の社会福祉協議会へ2台（本別町、鶴居村）の計8台を寄贈し、万一の時の備えとして、駅構内での救命活動やJR駅職員・地域住民の救命講習等に活用されております。



贈呈式：平成26年12月2日（火） 鶴居村社会福祉協議会にて
（左から 鶴居村社会福祉協議会 鶴橋会長、JAくしろ丹頂武藤組合長、JA北海道信連釧路支所 小森支所長）

当会は、今後も道内JAおよびJAバンク北海道サポート基金と連携のうえ、社会福祉への協力と地域社会とのコミュニケーション充実のため、地域貢献活動に取り組んでまいります。

JAバンク北海道サポート事業の実施について

当会は、北海道農業や農業担い手を支援するため、平成26年度より新たに『JAバンク北海道サポート事業』を実施しております。

この事業は、道内のJAバンクから農業資金および住宅ローンの融資を受ける農業者・組合員に対し利子の助成を行うことにより借入負担の軽減を図り、その経営をバックアップするものです。さらに農業担い手ニーズの調査・研究や環境に配慮した地域社会の実現に繋がる事業・地域貢献活動等幅広く北海道農業をサポートする事業に取り組みます。

この事業の運営主体として、「一般社団法人JAバンク北海道サポート基金」を設立し、JAバンク北海道における事業として安定的に取り組んで参ります。

大通公園花壇づくり

当会では、札幌市の緑化事業への参加として、農林中央金庫札幌支店が行っている札幌市大通公園での花壇植栽活動に平成26年度より参加しております。

今後も活動を通じて、地域の環境整備に努めて参ります。



〈植栽の様子〉



〈植栽後の花壇〉

社会的責任と地域貢献活動

北海道JAバンク食農教育応援事業の展開

JAバンク北海道では、JAバンクが行う社会貢献活動として、平成20年度から「北海道JAバンク食農教育応援事業」を展開しています。この事業はJAが行う食農・環境・金融経済についての教育活動をサポートするもので、全道小学校等に対する補助教材本の贈呈や小中学生などを対象とした農業体験学習などにかかる費用の助成を行っております。

全道小学校に補助教材本を贈呈

平成26年度は補助教材本「農業とわたしたちの暮らし」および新たにDVDを作成し、全道1,141校の小学校や特別支援学校に、北海道教育委員会・各市町村教育委員会等のご協力のもとに贈呈し、授業で活用いただいております。

JAバンクは補助教材本贈呈事業を通じ教育現場での食農教育を応援しています。



〈北海道教育委員会への教材本贈呈〉



〈JAびばい・JAみねのぶから美唄市教育委員会へ教材本贈呈〉

JAグループが行う食農・環境・金融経済教育事業のサポート

全道の各JAやJAの青年・女性部組織は地元子どもたちに食や農業などの教育活動を行なっています。平成25年度は58のJAや組織が農業体験学習や学校給食食材提供、料理教室など91の活動を行いました。

JAはこうした活動を通じ社会貢献を実施しており、JAバンクは助成事業を通じこれらの活動をサポートしています。



〈JAグループ北海道サンクスマッチ〉



〈JA当麻・田植え体験学習〉

ドドーン貯キャンペーンの実施

平成26年6月～7月および11月～12月までの間、それぞれ道内統一の貯金キャンペーン（通称「ドドーン貯キャンペーン」）を実施し、定期貯金・定期積金をご契約いただいた方の中から抽選で、道内農畜産物やJA特産品をプレゼントいたしました。



社会的責任と地域貢献活動



JAバンク北海道年金感謝ウィーク

(平成26年6月13日～30日)

JAで年金をお受取りのお客様に日頃の感謝を込めて『紅白うどん』をプレゼントしました。期間中(6月13日～30日)、全道で約6万人の方がご来店されました。



JAバンク年金お受取キャンペーン

(平成26年9月1日～12月30日)

平成25年度に引き続き、期間中(9月1日～12月30日)にJAで新たに年金のお受取り、またはご予約された方に『相田みつをグッズ』をプレゼントしました。

JAバンク北海道窓口セールスコンクールについて

地域のお客様のニーズにこれまで以上にお応えするため、JAバンクの窓口担当職員の接客対応力の強化と顧客満足度（CS）向上にむけ、JAバンク北海道窓口セールスコンクールに取り組みました。

コンクールはJAバンクの窓口担当職員が、ロールプレイング形式で接客対応力を競うもので、ニーズ把握力や提案力といったお客様満足度に関する項目を重視した審査により、優秀者を表彰することとしています。

平成26年度は、10月から翌年3月にわたり、全道6地区、12会場で地区予選会等を開催し、総勢72JA、140名にのぼる参加者の中から、平成27年5月の全道本選に出場する16名の窓口担当職員（年金部門、JAカード部門の2部門各8名ずつ）を選考しました。

平成27年度はいよいよ全道規模で窓口セールスコンクールを実施しますが、JAバンク北海道としては初の取り組みとなります。窓口担当職員のレベルアップ、モチベーションアップを通じ、より皆様のニーズに応えられるJAバンクを目指して取り組んで参ります。



全日本大学駅伝北海道予選会の応援

JAバンクでは、全日本大学駅伝の特別協賛を行っています。平成26年8月23日、秩父別町で開催された北海道予選会において、地元のJA北いぶきを始めJAバンク北海道も応援を行い、参加選手および大会関係者に、地元米「ななつぼし」を使ったおにぎり、地元特産のトマトジュース、JAバンクオリジナルタオルを差入れいたしました。



社会的責任と地域貢献活動

環境保全への取り組み

当会は、社会の一員として環境への負荷を認識し、省資源・省エネルギー・リサイクルにも配慮し、環境負荷の低減に努め、地球温暖化対策や循環型社会の構築へ向けた取り組みを図るよう努力してまいります。

■全会的な環境負荷低減への取り組み

平成18年度から、地方5支所（岩見沢・旭川・帯広・北見・釧路）も参加した当会全体としての環境保全行動計画を策定し、「節電への取り組み」、「ガソリン使用量削減への取り組み」、「紙使用量削減への取り組み」の3項目を目標設定し、環境負荷低減に取り組んでおります。

①節電への取り組み

蛍光灯の間引き、室内温度管理の徹底、不在エリアの消灯等を実施し、年間を通して節電に努めております。電力需給が逼迫した平成24年度から、平成23年度実績に対し6.1%の削減を目標に掲げ、平成26年度は31.3%の削減を達成しております。

②ガソリン使用量削減の取り組み

二酸化炭素排出の抑制を図るため、営業車両のハイブリット車等の低燃費車へ、切替えを順次行っております。

③紙使用量の削減

省資源への取り組みとして、裏紙の使用やNアップ印刷方法の活用などにより、紙使用量の削減に取り組んでおります。

④クールビズ・ウォームビズの実施

地球温暖化防止および節電対策の一環として、クールビズ・ウォームビズを実施しております。

■札幌市における環境保全活動への取り組み

当会では、平成15年に施行された「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、平成15年度から3ヶ年毎に環境保全行動計画を策定し、二酸化炭素排出削減をはじめとする、環境負荷低減の活動に取り組んでおります。

3ヶ年計画（平成24～26年度）の取り組み

札幌市内の事業所における二酸化炭素排出量について、電気・ガソリン・重油および天然ガスの削減に努め、3ヶ年で平成23年度の実績比19.8%の削減を目標として、平成26年度は34.7%の削減となり目標を達成しました。

【二酸化炭素排出削減の26年度実績】

(単位:t-CO₂)

	平成26年度実績	平成23年度実績	26-23年度比削減量	26-23年度比削減率
CO ₂ 排出量	488	748	▲260	▲34.7%